

| No | 作品名 | 出展者名 | 作品についての説明 |
|----|----------------------|-----------------|---|
| 21 | white flowers and... | たゆたふ (群馬県) | 普段はシルク糸の結び目でビーズを留める、オウルノットという技法でアクセサリーを制作しています。今回の作品も、その技法を用いて、日本やフランスのアンティークビーズや天然石をアクセサリーに仕立てました。1920年代のフランスにて、吹きガラスの技法で作られたスフレビーズやオートクチュールドレスの刺繍用の縫い付けビーズ、日本のデッドストックのシードビーズなどは、繊細なため金属の部材が使えません。結び目でパーツ同士がお互い緩衝しない、シルク糸の特性を活かした作品を目指しました。自粛生活が続き、家で手作りする方が増えているようです。今後は作品制作だけでなく、手芸キットの開発にも取り組みたいと思っています。 |
| 22 | 冴ゆる星 | 岡澤いずみ (群馬県) | 大気が澄み、星が鮮やかに透徹した感じを表現しました。絹糸の風合を最大限に活かせるようにハギを作らず、糸を切ることなく、一本糸で編み上げる『カスパリー編』で製作しました。絹糸が細く、編みたまるのに時間がかかりましたが、艶としなやかな強さの糸がイメージと重なり、喜びに変わる瞬間でもありました。 |
| 25 | レースのテーブルセンター | つなかん (和歌山県) | かぎ針3号が標準のところですが、やわらかい糸だったのでレース針0号で編んでみました。初心者なので、本の通りに編みました。テーブルセンターの他にも、マルチボックスの目隠し兼ホコリよけにも使えそうです。 |
| 26 | 藍の春 | 井口和子 (茨城県) | 藍が好きなので、藍の生地にシルク糸でステッチをしてみました。 |
| 27 | ショール | 星野徳枝 (群馬県) | 糸をいただいたときは、糸の細さや光沢で贅沢な気分と、緊張もしました。作品は季節を問わず、また年齢を問わずに身に着けられるショールにしました。シルクの美しさが伝わる編地をと考えました。長編みを活かし、透け感のあるネット編みを組み合わせ、シンプルな編地の連続で、軽やかな感じを出せたと思います。シルク100%の糸で編物するのは初めてです。手荒れに注意し、糸割れにも注意して、楽しんで編んだ40日間でした。 |
| 28 | エグランティーヌ | 游月希 (神奈川県) | この作品は小説『本好きの下剋上～司書になるためには手段を選んでいられません～』の作中に登場するレース編みの髪飾りを再現したものです。小説内では、レース編みの髪飾りは家族の絆を表すキーアイテムとして度々登場します。今回の出展にあたって、小説内で特に重要なシーンを飾る髪飾りを再現できてとても嬉しく思います。作成にあたって特に注意したのは「花の大きさ」と「色」です。この髪飾りは成人式のお祝いに贈られるものなので、原作に忠実かつ華やかさが出せる再現を心がけました。絹糸を染めることは初めてだったため、グラデーションの再現は苦労しましたが、綺麗な色に染められたかと思います。 |
| 29 | ミニケープ | 田中貞子 (群馬県) | 今回のシルク展の行事に参加させていただき、シルク100%の糸に手で触れた時に昔のことを思い出してしまいました。私の父は小作人の方がお手伝いをしてくださる大きな農業の家の次男で、農業はもちろんでしたが養蚕農家でした。出荷できないような繭から糸を取り、母が手織機で布を織っていた事を思い出し、とても懐かしいです。私は60年近く、着物の着付け、手編みをしており、時にはシルクの入った毛糸で編みますが、こんなに手触りのよい糸には出会いませんでした。今回のシルクの糸は少し手が荒れると糸が割れて編みにくいのに驚きました。とてもデリケートですね。糸風合いを活かして、二本取りで洋服・和服でも上から羽織るものがよいと思い、ケープにしてみました。 |
| 30 | 芽吹く時 | 中里見なるみ (群馬県) | 糸を切らずに一本糸で編む『カスパリー編』を習い始め、作品としては処女作です。絹糸で編むのはもちろん、細い糸で編むことも初めてで、戸惑うことばかりでしたが作品が仕上がる喜びはまさに『芽吹く時』です。若葉が感じられるように薄緑に染めてみました。 |
| 32 | アフガン編み 4連ネックレス | 蜜月ミク (群馬県) | 富岡シルクに触ったときに柔らかくてふんわりとして優しいイメージが浮かんだので、お蚕の可愛さと合わせてアフガン編みに、プラスチックビーズとローズクォーツを組み合わせてネックレスにしてみました。 |
| 33 | gift | 小川大輔 (群馬県) | 作品コンセプト：金色姫伝説 金色姫から未来への gift その昔・・・故郷を離れざるをえなかった金色姫は靉舟に乗せられ、荒波を越えてやってきた。そして金色姫が身を持って齎した 蚕と桑は 人々の糧となった。千数百年後の現代、金色姫からの gift は届き続けている。 技法：マクラメ(ネックレス部分は2本依りにして使用) 表現：【ネックレス部分】海 波 ⇄ 蚕 蛹、桑の葉 【トップ上部】海を渡る舟 鳥居 【トップ中部】光の輪 蚕(化身?) 【トップ下部】時間 糧(絹) |